

秋季現地調査の結果（概要）

○実施日：11/22(水), 11/27(月), 12/8(金)

○実施方法：指定候補地を自然環境保全区域と景観形成区域に区分（重複を解消）のうえ、各区域に対するチェックシート（暫定版）をもって全地点を踏査し、現状および課題を記録した。 ※区分の基準となった両区域の定義については資料④参照

表 自然環境保全区域・景観形成区域の指定候補地の区分（案）

分類		旧No.	地点名	構成要素		
自然環境保全区域	指定済み区域	1	筆山	天然林・二次林		
		2	山内神社の森	社叢		
		3	石立八幡宮の森	社叢		
		4	朝倉神社の森及びその裏山	社叢／天然林・二次林		
		5	岩ヶ淵及びその裏山	鏡川湛水域／天然林・二次林		
		6	川上不動尊の森及びその周辺の森林	社叢／天然林・二次林		
		7	七ツ淵神社の森及びその周辺の森林	社叢／天然林・二次林		
	候補地	水源地	8	工石山の森林とサイの河原	地質・地形／植生	
			22	菖蒲洞	地質・地形／洞穴（吐出口地形）	
		渓谷	9	高川渓谷	河床・河岸／河畔域・植生	
			24	吉原渓谷	河床・河岸／河畔域・植生	
		滝	12	樽の滝	地質・地形／植生	
			13	平家の滝・森林公園	地質・地形／植生	
			20	山姥の滝	地質・地形／植生	
		峡谷	10	桑尾の石灰岩地植生と穴の谷峡谷	地質・地形／植生	
			11	大穴峡と石灰岩地植生	地質・地形／植生	
			25	鏡地区の石灰岩地植生	地質・地形／植生	
		岩	14	夫婦岩	地質・地形	
			20	ゴトゴト石	地質・地形	
		景観形成区域	堰	31	鏡川本川上流の堰群	Co構造物／石積構造物／角落とし／用水路
				橋	17	桑尾の沈下橋
18	弘瀬の沈下橋				橋／河床・河岸／農道・林道	
19	桑尾橋（吊り橋）		橋／河床・河岸／農道・林道			
候補地	施設		21	畑川橋と水泳場	的淵川湛水域／橋／利用施設	
	神社		15	的淵熊野神社とその周辺	社殿／境内／社叢／天然林・二次林	
			16	御霊神社とその周辺	社殿／境内／社叢／天然林・二次林	
			22	白山神社（イチイガシ）	社殿／境内／社叢／巨木／水路	
			23	狩山河内神社（イチイガシ）と吉原川	社殿／境内／社叢／巨木／河床・河岸	
			26	柿ノ又河内神社とその周辺	社殿／境内／社叢／天然林・二次林	
	27		竹奈路河内神社とその周辺	社殿／境内／社叢／天然林・二次林		
水田	28		遼野的の淵川と巨岩のある水田風景	水田／巨岩		
	29		重倉地区の棚田	水田／石垣／祠		
	30		鎮家地区の棚田	水田／石垣		
	32	坂口地区の棚田と石垣	水田／石垣			

秋季現地調査の結果（概要）

No.	名称	候補地の選定：H17							水域候補地の評価：H18					現状：H28夏季	現状：H29秋季
		特質	川との一体感	立地の特殊性	自然度	二次的良質な自然	歴史・伝統	地域住民とのかわり	河床	護岸	植生	魚類の生息	平均		
8	工石山の森林とサイの河原	<p>工石山・陣ヶ森県立自然公園内に位置し、全国初の自然休養林。高知営林局と県が共同で整備し、県民の森として親しまれており、春はシャクナゲ、ツツジ類が美しく、秋は紅葉の美景で知られる。工石山は鏡川の源流でもあり、水源かん養保安林の役割も果たす。特に暖温帯から冷温帯への移行地帯の森林植生は学術的に貴重な存在でもある。山腹には妙体岩、鏡岩と名付けられた珪質の巨岩がある（以上、「四国百山（高知新聞社,1987）」より引用）。</p> <p>この妙体岩は、山内一豊公が土佐入国の際、舟入コースの目標となって無事入国を果たしたという伝説があり、岩の麓に祭られている権現様への参道石段は山内公が献上されたものといわれている。（嶺北森林管理署説明板より引用）</p> <p>工石山頂上からは四国の山々のほか、鏡川の河口部も望むことができる。また、サイの河原は岩間から湧き出る清水が源流となって、ヒメシャラやツガの木々の間を流れる。河原の石の下にはブチサンショウウオなども生息し、鏡川の源流にふさわしい深山幽谷の雰囲気醸し出している。</p>	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	<p>特定植物群落／県立自然公園／鏡川20景</p> <p>目立った変化はなく、良好な状態で維持されていると推察される。河原は案内板や標識などの人工物がやや眺望を阻害している。</p>	<p>*露頭：改変なし／崖状（妙体岩・屏風岩など）</p> <p>*巨木：ヒノキ、ブナ、スギ／植生：暖温帯から冷温帯への移行帯</p> <p>*環境音：サイの河原における沢音・源流の湧出音</p> <p>*河床：水量のある時期に再調査／河岸：改変なし</p> <p>*高川川の水源の森。高知市（鏡川流域）で最も高標高⇒立地（場所）の観点から価値づけはどうか</p> <p>*鏡川流域および浦戸湾への眺望（屏風岩・展望台より）</p> <p>*管理が行き届いた登山道／丁寧な仕上がりでの整備箇所</p> <p>*サイの河原で乱立した看板が眺望を阻害（写真に必ず写り込む）⇒東屋や小屋に諸施設を集約してはどうか</p> <p>【状態=○／開発圧力=低／区域指定=易】</p>	
22	菖蒲洞	<p>土佐山菖蒲地区にある菖蒲洞は、全長700mの鍾乳洞であり、奥部には鍾乳石や石筍、石柱などが多い。希少な洞穴生物も多数確認されており、県の天然記念物に指定されている。また、洞窟からは清浄な地下水が豊富に流出し、水源地としても重要な存在といえる。</p> <p>この菖蒲洞入口から50mほど登ったところに初平ヶ岩屋遺跡がある。ここからは獣骨や貝類とともに弥生式土器片が出土しており、弥生時代後期における、県内でも有数の洞窟遺跡とされる。</p> <p>一方、洞窟へ至る歩道の起点にある白山神社には、樹高30m、胸高幹周4.5m、推定樹齢500年のイチイガシ（白山様のイチイガシ）があり、環境庁（当時。以下同様）が選定した巨樹・巨木（環境庁,1991）、土佐の名木・古木（高知県森林局,2000）の双方にリストアップされている。また、神社に隣接する「菖蒲ふれあいの里」脇には美しい溪流・西谷川があり、菖蒲洞と一体となって重要な景勝地となっている。</p> <p>ただし現状では、洞穴性動物の保護と観光資源の保全のために洞窟入り口に立ち入り禁止の柵が設けられているほか、洞窟周辺の鏡川もコンクリートブロックなどで改修されており、景観をやや損ねている感がある。上述したように、鏡川の中でも重要な場所であることから、伝統的な工法等でぜひとも修景したい場所といえる。</p>	○	○	△	-	○	-	1	2	2	1	1.5	<p>県天然記念物／鏡川20景</p> <p>いずれも良好な状態。菖蒲洞入口に露出していた配管は暗渠化により修景され、見学しやすくなっている。</p>	<p>*露頭：改変なし／崖状（入口部）</p> <p>*環境音：洞内からの湧出音／鏡川の瀬音</p> <p>*洞窟入口前の路面がコンクリート張り⇒修景に工夫の余地あり</p> <p>*台風21号の影響</p> <p>-洞窟入口に至る小道に山崩れの痕跡あり（崩土除去後）</p> <p>-鏡川上流左岸に崩壊地あり</p> <p>【状態=○／開発圧力=低／区域指定=易】</p>
9	高川渓谷	<p>土佐山高川地区に位置する高川渓谷は、「鏡川の休日」（鏡川流域協議会,1988）には、下記のように記されている。</p> <p>『大小の岩が折り重なるように続き、その間を湧き水のようにすみきった清水が、岩々にしみ通るような音をたてながら流れる。春は桜、山ツツジ。秋は紅葉など四季が楽しめ、流れる清水にはアメゴも生息しており、溪流釣りが味わえる。』</p> <p>鏡川流域協議会が鏡川20景に選定したのは、県道高知本山線の急カーブが高川川を横切る「夢産地とさやま開発公社」よりも上流の区域と考えるが、この区域は地形が険しく川沿いに道もないため、釣り人以外に訪れる人はまれであろう。</p> <p>公社より下流は、県道や住宅に隣接しているにもかかわらず溪流の自然がよく残されている。むしろ下流区間の方が、自然環境や景観の保全に気をつける必要がある。</p>	○	-	○	-	-	-	2	1	2	1	1.5	<p>鏡川20景</p> <p>目立った変化はなく、良好な状態で維持されていると推察される。</p>	<p>*露頭：高川橋の上流左岸に目立つ露頭あり</p> <p>*巨木：高川橋の上流の森林内に存在する可能性あり</p> <p>*植生：植林・竹林・二次林（橋下流）／自然度の高い植生（橋上流）</p> <p>*環境音：ステップ&プールの瀬音</p> <p>*河床・河岸：やや明瞭／二面張・左岸へのみお筋偏流（橋上流）／床止め・落差が瀬・湛水域が淵（橋下流）</p> <p>*高川川左岸の親水公園「鏡川源流憩の広場」（練積護岸/WC/水飲み）⇒これより下流にも水辺に近づける空間あり</p> <p>⇒これら水辺を拠点に景観形成を図ってはどうか（開発抑止は面規制で）</p> <p>【状態=○／開発圧力=中／区域指定=やや易：範囲による】</p>
24	吉原渓谷	<p>吉原川の中流部、白岩地区から谷口地区にかけての区間は、吉原渓谷として鏡川20景（鏡川流域協議会,1988）に選定されている。急峻な崖状地形が続くこの区間には落差約20mの明神の滝があるほか、巨岩や青く深い淵などが多い。水際へのアクセスは不便ではあるが、自然林の多い川岸とともに良好な自然と美しい景色が残されている。</p>	○	-	○	-	-	-	3	3	2	3	2.8	<p>鏡川20景</p> <p>目立った変化はなく、良好な状態で維持されていると推察される。</p>	<p>*県道からの眺望・水際（明神の滝など）へのアクセス困難⇒数か所の橋が主な視点場</p> <p>*想定範囲が広い（鏡川20景に位置づけられた区間=2km）⇒面的規制+狩山河内神社の水辺を親水の間として象徴的に位置づけ</p> <p>*川・棚田・山林の一体的な眺望</p> <p>【状態=○／開発圧力=中／区域指定=やや易：範囲による】</p>

秋季現地調査の結果（概要）

No.	名称	候補地の選定：H17						水域候補地の評価：H18					現状：H28夏季	現状：H29秋季
		特質	川との一体感	立地の特殊性	自然度	二次的良質な自然	歴史・伝統	地域住民とのかわり	河床	護岸	植生	魚類の生息		
12	樽の滝	樽の滝は穴川川の上流端にあり、高さ65mの二段の滝からなる。その高さは四国一といわれており、滝壺に竜神宮が祭られている（鏡村史編集委員会, 1989）。また、滝から下流約300mの区間の渓谷林はケヤキ、ヤマザクラ、各種のカエデ類などの落葉樹が多く、春には新緑、秋には紅葉を楽しむことができる。こうした渓谷林は景観、自然環境の側面から重要であり、滝と一体的に保全すべきと考えられる。	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	鏡川20景 良好な状態にあり、今後も維持されると予想される。下流部には原生的な渓谷林が維持されている。遊歩道は歩きやすいが、入口の木橋は経年劣化が予想される。	*露頭：改変なし／崖状／落差の大きい滝（四国一） *巨樹：沢沿いにケヤキ大木 *植生：沢沿いにカエデが多く紅葉 *環境音：滝音 *沢沿いに天然林、背後は植林地／龍神宮社殿前に天然林、山側一部植林地 *遊歩道入口から社殿までに鳥居3基 *厳冬期に滝の一部や周辺部が凍結することがある。 【状態=○／開発圧力=低／区域指定=やや易／範囲による】
13	平家の滝・森林公園	平家の滝は、的淵川上流の鏡横矢地区にある落差約30mの二段の滝であり、その傍らには平家落人の子48人が投身したと伝えられる滝神社がある。また、イヌシデ、イロハモミジといった落葉樹や、スダジイ、ウラジロガシ、カゴノキなどの常緑樹からなる成熟した森林の中にあることもあって、神秘的な雰囲気を出している。周辺は森林公園として遊歩道などが整備されている。	○	-	○	-	-	-	-	-	-	鏡川20景 良好な状態にあり、今後も維持されると予想される。ただし、滝壺への案内がややわかりにくい。	*露頭：改変なし／崖状・二段の滝 *植生：常緑広葉樹／沢沿いに植樹 *駐車場付近の植樹が滝への通景を阻害 ⇒間引くことで改善（ただし夏季は下段への通景不可） 【状態=○／開発圧力=低／区域指定=やや易／範囲による】	
20	山姥の滝	支流桑尾川の最上流にある落差30mの滝。滝の中間にある岩場の割れ目には、山姥様（老婆の姿をした妖怪で、福の神とされる）が祀られている（鏡川流域協議会, 1988）とされる。すぐ近くの「ゴトゴト岩」の前には駐車場やトイレが整備され、桜やドウダンツツジも植栽されているが、駐車場から滝に至る道沿いには、廃屋や耕作放棄地があり、荒廃感が漂う。	○	-	-	-	○	-	-	-	-	鏡川20景 いずれも良好な状態にあり、今後も維持されると予想される。	*露頭：改変なし／崖状・均整のとれた形状の滝 *植生：滝周辺は落葉広葉樹が多い（調査時は落葉） *環境音：滝音 *河床：明瞭なステップ&プール／河岸：改変なし *近景：滝壺下流を含め一連の滝として観賞できる可能性あり *遠景：駐車場から滝への通景が阻害（秋季は紅葉に囲まれ高い観賞価値） ⇒右岸のスギ林の最前列を伐採することで改善可能 *滝壺に至る小道に改善の余地あり（木製土留めの損傷／植生の繁茂） 【状態=○／開発圧力=低／区域指定=やや易／範囲による】	
10	桑尾の石灰岩地植生と穴の谷峡谷	土佐山桑尾地区古味の鏡川沿いの石灰岩露出地は、「土佐山の石灰岩地植生」として環境庁の特定植物群落に選定されており、急峻で複雑な谷地形の山肌に、周辺の照葉樹とは異なる相観の樹林が形成されている。また、石灰質の岩肌に、春は山桜、秋は紅葉が映えて美しい（鏡川流域協議会, 1988）ことから、穴の谷峡谷として鏡川20景に選出されている。	○	○	○	-	-	-	-	-	-	特定植物群落／鏡川20景 良好な状態にあると推察され、今後も維持されると予想される。	*露頭：改変なし／崖状／鏡川右岸は落石防止ネット *指定の想定範囲を要確認 【状態=?／開発圧力=低／区域指定=やや易／範囲による】	
11	大穴峡と石灰岩地植生	大穴峡は土佐山弘瀬地区にある。白くそびえ立つ石灰岩の絶壁に、直径5m、奥行き10mほどの大穴があることからこの名がある。この周辺は「土佐山の石灰岩地植生」として環境庁の特定植物群落に選出されており、鏡川と一体となって独特の景観を形成している。	○	○	○	-	-	-	2	3	3	2	2.5 良好な状態にあり、今後も維持されると予想される。「大穴」は植生で塞がれている。水遊びを楽しむ人々で賑わっていた。	*露頭：改変なし／大規模な崖状 *河床：やや明瞭な瀬と淵／河岸：一部改変 *大穴を塞ぐ植生の管理について要検討 *崖下の小道の活用について可能性はないか（遊歩道など） *開発がほぼ不可能な立地 ⇒区域指定・面的規制は容易と予測 【状態=○／開発圧力=低／区域指定=易】
25	鏡地区の石灰岩地植生	石灰岩地帯の植生や植物相は、母岩や土壌の化学的、物理的性質や特殊な環境のもとでの植物の競合関係などから、特殊であることは古くから知られている（山中, 1978）。鏡地区では、穴川から白岩を経て遠野に至る一帯に石灰岩がよく露出している（鏡村史編集委員会, 1989）が、中でも白岩地区の吉原川沿いでは露出が著しく、石灰岩の露岩が絶壁のようにそびえ立つ。山肌にはイワシデ群落やアラカシ群落などの好石灰植生が発達し、周囲とは明らかに異なる相観となっており、環境庁の特定植物群落に選定されている。この石灰岩の露出地は植生の特殊性ばかりではなく、雄大な地形と相観の特殊性は景観面からも評価できる。	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	特定植物群落 良好な状態にあると推察され、今後も維持されると予想される。	*露頭：改変なし／大規模な崖状 *外観から判断する限り、状態は変わらない *開発がほぼ不可能な立地 ⇒区域指定・面的規制は容易と予測 【状態=◎／開発圧力=低／区域指定=易】

秋季現地調査の結果（概要）

No.	名称	候補地の選定：H17						水域候補地の評価：H18					現状：H28夏季	現状：H29秋季	
		特質	川との一体感	立地の特殊性	自然度	二次的良質な自然	歴史・伝統	地域住民とのかわり	河床	護岸	植生	魚類の生息			平均
14	夫婦岩	夫婦岩（鏡的淵地区）は的淵川にある一対の巨岩であり、古くから夫婦和合の象徴として親しまれている（鏡川流域協議会，1988）。鏡川20景に選ばれている。	○	-	○	-	-	-	3	2	3	2	2.5	鏡川20景 周辺の崩壊地の復旧工事に伴う通行規制により、視認が困難。	*県道や宅地内道路からの眺望困難 ／道路擁壁が切り立ち河道内へのアクセス困難 ⇒春季に再調査 *的淵川の河岸のごく一部 ⇒面的規制+いわれのある地物として象徴的に位置づけ 【状態=? / 開発圧力=中（災害復旧） / 区域指定=やや易】
20	ゴトゴト石	支流桑尾川の最上流にある落差30mの滝。滝の中間にある岩場の割れ目には、山姥様（老婆の姿をした妖怪で、福の神とされる）が祀られている（鏡川流域協議会，1988）とされる。すぐ近くの「ゴトゴト岩」の前には駐車場やトイレが整備され、桜やドウダンツツジも植栽されているが、駐車場から滝に至る道沿いには、廃屋や耕作放棄地があり、荒廃感が漂う。	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	鏡川20景 いずれも良好な状態にあり、今後も維持されると予想される。	*H28夏季と殆ど状態は変わらないが、向かって左側の石のメ縄が消失 ⇒メ縄は昨年末にかけ替えが行われている。 【状態=○ / 開発圧力=? / 区域指定=?】	
31	鏡川本川上流の堰群	重倉川流入点から上流の鏡川本川は、地形がやや緩やかとなり、川の両側に交互に水田が拓かれている。このため、この区間は取水堰が多く見られる。これらの堰は落差が小さなものがほとんどであることから、かつては河川生態系への影響が比較的小さかったと考えられるが、コンクリートで改修されたものが増加しているため、生態系への影響も徐々に増大していると考えられる。また、この区間には不安定な状態で留まっている石が多い場所や、一定の大きさの石が欠落している場所が多く、隣接する県道の改良工事や庭石の盗石など、人為的攪乱によって河川内の自然度が低下している様子がうかがえる。しかしながら、堰の中には伝統的な空石積み構造がそのまま残され、形状も独特なものがある。また、県道と鏡川の流れが接近しているため親水性が高いことから、近自然工法で魚が上り下りしやすい堰に改善し、また瀬と淵を復元することで、地域のシンボリックな区間に生まれ変わる可能性が高い区間でもある。	○	-	△	-	○	-	1	1	2	2	1.5	外観は保たれていると推察される。農業用水の取水に利用されているが、稲作から畑地等への転換や耕作放棄地が増加し、その役割は変化しつつある。 ①崩壊／斜め堰／コンクリート ②現役／水通し×2／コンクリート ③現役／斜め堰／コンクリート（道側）練積（山側） ④現役／水通し×2／コンクリート／堰下流に巨石 ⑤現役／水通し×2／コンクリート／左岸に水路 ⑥現役／水通し×1／コンクリート ⑦現役／水通し×2／コンクリート／農地に隣接 ⑧減失／西川川合流点下流（橋下） ⑨現役／水通し×1／コンクリート／左岸に水路 ⑩現役／水通し×1（左岸）／練積 ⑪現役／水通し×1／コンクリート／右岸に農地 ⑫? / ヒューム管による水通し×1／練積／堰下流の左岸基礎部で河床低下	
17	桑尾の沈下橋	土佐山桑尾にある沈下橋は、全体として上流に向かって弧を描くように、両岸から下りてくる道路が滑らかに橋につながる独特の線形をしている。橋脚は四万十川や仁淀川の沈下橋のように細いものではなく、石積みの分厚いもので、河床から突き出た巨大な岩を思わせる。このため、一見すると水面に突き出た岩に板をかけただけの橋に似ている。また、水面と路面の高低差が少ないために、橋の上に佇むと、まるで川中の岩の上にいるような錯覚に陥る。形も独特であるが、多くの人が懐かしさや親しみを感じるのではないだろうか。ただし、県道の改良によって上流右岸側に巨大なコンクリートの擁壁が出現している。視点場としての橋の重要性を考慮すれば、伝統的な構造物として橋そのものを評価するだけではなく、周囲の景観も修復したい。	○	-	-	-	○	○	2	2	2	2	2	上下流の河床の高低差が大きい。上流に砂礫の堆積が目立ち、橋が流れや土砂移動を阻害している可能性が高い。路側擁壁による河川景観の質の低下が懸念される。 *重倉川の流路が左に大きく蛇曲する半島状の地先に架橋 *県道の対岸に畑地および農林道／渡河地点はこのみ ⇒農林業の存続に一定の役割があると推測／利用頻度は不明 *建造物の特徴：岩盤上に築造された幅広の橋脚／狭い通水路 ⇒上流側に砂礫が堆積／橋脚に壊れた巨礫／桁下の河床低下 ⇒橋の上下流で河床に大きな高低差 *橋自体が老朽化／上流右岸の路側擁壁が目立つ 【状態=△ / 開発圧力=中（災害復旧） / 区域指定=やや易：範囲による】	
18	弘瀬の沈下橋	土佐山弘瀬にある、河床の岩盤を利用して作られた沈下橋。橋の幅は狭く、車は通行できない。中央部にある岩盤の両側で橋の位置がずれており、流れの中に渡した板をコンクリートに変えただけのような印象の橋である。また、コンクリートを使用しているものの、人工的な印象がほとんどしない橋であり、地元の人々が田畑に通う伝統的な生活の風景を連想させる。	○	-	-	-	○	○	2	2	2	2	2	流れ等の阻害は見られないものの、県道からは電柱やコンクリート構造物が目立ち、河川景観としての質の低下が懸念される。アユ釣り客が見られた。 *直線河道区間／左岸からの谷の合流点に架橋 *県道から上記の谷へ延びる索道あり（現役のものか不明） ⇒隣地に向かうための渡河地点の可能性あり *形状・構造は「桑尾の沈下橋」に類似／華奢な印象の外観／老朽化 【状態=△ / 開発圧力=中（災害復旧） / 区域指定=やや易：範囲による】	
19	桑尾橋（吊り橋）	桑尾橋（土佐山桑尾地区）は新しく架けられた吊り橋であるが、鏡川の流れや河畔林とよくマッチしている。思わず橋の上にたたずんで、橋の下の透明な流れを泳ぐアユの姿をのぞき込み、石灰岩特有の植生に覆われた崖地を背景にした青い淵に見とれる場所である。橋の下流には河原があり、夏には水遊びをする子供たちの姿が見られる。	○	-	-	-	-	○	1	2	2	2	1.8	橋の本体部分がなくなっている。右岸側では転倒したコンクリート構造物（アンカレッジ）が残され、旧道を半分ほど塞いでいる。 *H28夏季と同じ状態 ⇒鏡川右岸遊歩道の機能回復のため、構造物を撤去してはどうか 【状態=×：候補地から除外】	
21	畑川橋と水泳場	鏡地区の梅ノ木川合流点付近の的淵川にかかる畑川橋は、コンクリートの橋ではあるが、昭和の面影を残し、どこもない懐かしさを覚える。橋の下には堰でできた淵があり、夏の日差しのおかげで遊ばず子供たちの姿が思い浮かぶ。山里の活気のある風景を見ることのできる場所であり、大切にしたい。	○	-	-	-	○	○	2	1	2	1	1.5	堰上流の淡水域を活かした水泳場。川へ下りる階段や日除けが設置されるなど利用面に配慮された空間である。家族連れで賑わっていた。 *H28夏季と同じ状態 *橋下流左岸の階段の基礎部が洗掘 ⇒根継ぎ等の改修時に外観が変わる可能性あり 【状態=○ / 開発圧力=中（災害復旧） / 区域指定=やや易】	

秋季現地調査の結果（概要）

No.	名称	候補地の選定：H17							水域候補地の評価：H18					現状：H28夏季	現状：H29秋季
		特質	川との一体感	立地の特殊性	自然度	二次的自然	良好な歴史・伝統	地域住民とのかわり	河床	護岸	植生	魚類の生息	平均		
15	的淵熊野神社とその周辺	的淵川は河床に大小の石礫がバランス良く残されている。このため、河岸から見た流水路や河原の眺めは、大小の礫の間を流れ落ちる急流と小さな淵状の落ち込みが交互に、そしてダイナミックに組み合わせられ渓流としての特徴がよく見てとれる。 鏡的淵地区の熊野神社前の的淵川は、そういった健全な状態の河床と、護岸工事後も残されたエノキとクロガネモチの古木がよくマッチし、山里の自然と歴史を同時に感じさせる景観が形成されている。	○	-	○	-	-	-	2	2	2	3	2.3	社殿など境内は概ね良好な状態にある。	*河床・河岸についての所感H17調査のとおり *県道と境内との境界部にヒノキ大木 *二本の石柱（輪抜け様？） *信仰の範囲不明（下流側に小集落）／暮らしとの結びつきについて要調査 【状態＝自然○・景観○／開発圧力＝低／区域指定＝やや易】
16	御霊神社とその周辺	土佐山庁舎に近い御霊神社は高川川の河畔にあり、鬱蒼とした社叢林は河畔林としても重要な存在となっている。 高川川は全般に大小の石礫が多く、庭石としての盗石が少なかった様子がうかがえる。このため小さな落差とプール状の淵が交互に形成され、渓流の形状をよく保っている。特に御霊神社付近は、社叢林や周辺の河畔林と一体となって、美しい渓谷が形成されている。	○	-	-	-	○	○	3	2	2	3	2.5	社殿など境内は概ね良好な状態にある。神社脇の高川川では、親子連れが水遊びをしていた。	*境内は高川川の流路が左に大きく蛇曲する半島状の内岸（左岸）に立地 *河床・河岸ともほぼ良好（概ね明瞭な瀬と淵／一部で路側擁壁が水際） *社叢にはシイやアラカシが多い *土俵が老朽化（崩壊が懸念される状態） *社殿が老朽化（拝殿：地際が腐朽／本殿：建替済み） *シイタケ栽培（楢木） *信仰の範囲不明／暮らしとの結びつきについて要調査 【状態＝自然○・景観△／開発圧力＝低／区域指定＝やや易】
22	白山神社（イチイガシ）	土佐山蓆蒲地区にある蓆蒲洞は、全長700mの鍾乳洞であり、奥部には鍾乳石や石筍、石柱などが多い。希少な洞穴生物も多数確認されており、県の天然記念物に指定されている。また、洞窟からは清浄な地下水が豊富に流出し、水源地としても重要な存在といえる。 この蓆蒲洞入口から50mほど登ったところに初平ヶ岩屋遺跡がある。ここからは獣骨や貝類とともに弥生式土器片が出土しており、弥生時代後期における、県内でも有数の洞窟遺跡とされる。 一方、洞窟へ至る歩道の起点にある白山神社には、樹高30m、胸高幹周4.5m、推定樹齢500年のイチイガシ（白山様のイチイガシ）があり、環境庁（当時、以下同様）が選定した巨樹・巨木（環境庁、1991）、土佐の名木・古木（高知県森林局、2000）の双方にリストアップされている。また、神社に隣接する「蓆蒲ふれあいの里」脇には美しい渓流・西谷川があり、蓆蒲洞と一体となって重要な景勝地となっている。 ただし現状では、洞穴性動物の保護と観光資源の保全のために洞窟入り口に立ち入り禁止の柵が設けられているほか、洞窟周辺の鏡川もコンクリートブロックなどで改修されており、景観をやや損ねている感がある。上述したように、鏡川の中でも重要な場所であることから、伝統的な工法等でぜひとも修景したい場所といえる。	○	○	△	-	○	-	1	2	2	1	1.5	巨樹・巨木 いずれも良好な状態。蓆蒲洞入口に露出していた配管は暗渠化により修景され、見学しやすくなっている。	*社殿の保存状態に目立った問題はみられない *イチイガシの生育状態に目立った問題はみられない 【状態＝自然○・景観○／開発圧力＝低／区域指定＝やや易】
23	狩山河内神社（イチイガシ）と吉原川	鏡狩山地区の吉原川沿いにある河内神社の社叢にはスダジイ、イチイガシなどの大木が多く、川面に影を落とす重厚な景観を形成している。特に、イチイガシは樹高15m、胸高幹周3.0m、推定樹齢300年の古木で、環境庁が選定した巨樹・巨木（環境庁、1991）、土佐の名木・古木（高知県森林局、2000）の双方にリストアップされている。 また、河内神社付近から下流約100mの区間は、平成10年度に「水と緑豊かな溪流砂防事業」として護岸工と床固工が実施され、治水機能と同時に豊かな生態系・景観の再生と親水性の向上が図られた。地域の活動も活発であり、地域のシンボリックな場所といえる。	○	-	○	-	○	○	3	2	3	2	2.5	巨樹・巨木／鏡川20景 イチイガシは伐採済み。社殿など境内は手入れが行き届いている。吉原川は親水性が高く、堰上流の湛水域は親子連れで賑わっていた。	*吉原川の水を引き込んだ空石積の水路／コイ池 ⇒吉原川の生息種を観察できる池に変更してはどうか *下流側の飛び石（近自然）と上流側の頭首工により兩岸を往来可能 ⇒既設遊歩道と併せて周遊ルートとして活用してはどうか ⇒右岸側に簡易な整備が必要／ルート上の見どころを要整理 【状態＝自然○・景観○／開発圧力＝低／区域指定＝やや易】
26	柿ノ又河内神社とその周辺	柿ノ又地区の河内神社の社叢と的淵川。河内神社の社叢は、鏡地区では最も面積が広く、よく保存されている残存林（自然林）とされる（鏡村史編纂委員会、1989）。 左岸側は道路改修で人工的な景観となってしまったが、右岸側は社叢の深い緑と白い巨岩の中を流れ落ちる清流とが鮮やかなコントラストをなし、的淵川最上流の渓流の様相を今も残す。	○	-	○	-	○	-	1	1	2	1	1.3	境内は手入れが行き届き、社殿や鳥居などにも目立った損傷はなく、良好な状態が保たれている。	*手入れが行き届いた境内 *シイ・スギの大木／社殿背後に広い社叢 【状態＝自然○・景観○／開発圧力＝低／区域指定＝やや易】
27	竹奈路河内神社とその周辺	的淵川の上流域では流路の中の巨岩があり、独特の河川景観を形成している。特に、鏡竹奈路地区の河内神社付近から達野集落付近までの間は巨岩が多い上に、川沿いに自然林や棚田が分布しており、良好な河川景観が維持されている。また、河岸から対岸の尾根筋までが見渡せ、雄大な景観も楽しむことができる。 河内神社付近では、道路から水際へのアクセスが比較的容易で、さらに少し手を加えることで高齢者や子供でも水際に降りられるように改善できる。	○	-	○	-	-	△	3	2	3	2	2.5	社殿が老朽化。高知大神宮にご神体を遷し、社殿を取り壊した後、跡地に石碑を建立する予定（河内神社公示より）。	*H27年度内に完了予定であった社殿取壊しが未了 *社殿背後の大岩がご神体の可能性あり（縁起不明） ⇒社殿取壊し後も一定の観賞価値あり 【状態＝△：要検討】

秋季現地調査の結果（概要）

No.	名称	候補地の選定：H17						水域候補地の評価：H18					現状：H28夏季	現状：H29秋季	
		特質	川との一体感	立地の特殊性	自然度	二次的良質な自然	歴史・伝統	地域住民とのかわり	河床	護岸	植生	魚類の生息			平均
28	遼野の的淵川と巨岩のある水田風景	的淵川上流には巨岩が多く、遼野集落では水田内にもこの巨岩が露出している。里山に囲まれた比較的小さな空間の中で、大きな岩と小さな野石で作られた石垣、水田の一角に残された野草や河畔の高木と整然とした稲穂が対照をなし、箱庭的な山里の風景と落ち着いた雰囲気を感じ出している。人工的な景観要素となっている取水堰を、生態系に配慮しつつ伝統的な様式で改修すれば、生態学的な豊かさを兼ね備えたより質の高い景観となると考えられる。	○	-	-	○	-	○	2	1	2	2	1.8	複数の巨石に囲われた庭園のような水田。かつて市道から見渡すことができたが、現在は植生の繁茂により眺望が阻害されている。	* 草本の冬枯れと樹木の落葉により県道からの眺望がやや改善 * 稲穂のない冬場は観賞価値に劣る * 周囲の新材家屋が景観の質を阻害 【状態=△/開発圧力=中（農地転用）/区域指定=やや難】
29	重倉地区の棚田 (久礼野地区を含む)	重倉地区は他の原流域とは異なり、緩やかな起伏のある地形をしている。このため、そこに拓かれた棚田は、段差部の土羽がよく手入れされていることもあって、ゆったりとした雰囲気を醸し出している。近年、高知市のベッドタウンとして小規模な開発が進んでおり、そこに住む人々に対しても質の高い住環境を提供している。また、後掲するアンケート調査でも「今後残したい風景」として当地区の水田風景が挙げられており、住民の間でも安らぎを感じる里山の風景としてとらえられていることがわかる。しかし、近年重倉川の水質悪化が懸念されており、環境と調和した地域づくりのあり方を考える必要がある。重倉地区の棚田、農村風景の保全は、源流域での水源涵養や水質保全の見地からだけでなく、住環境の質を高いレベルで維持する上でも重要といえる。	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	緩やかな棚田。祠が祀られ一本杉が残るなど、昔からの文化が大切にされているようすがうかがえる。開発による景観の質の低下が懸念される。	●重倉地区 * 県道と市道に挟まれた浅い谷地に立地/複数の谷に分かれた複雑な地形 * 土羽主体の棚田/目立った耕作放棄地なし * 新材の家屋が立ち並び、農村景観としては人工的な印象 * 道路沿いに周回可能/谷奥の視点場から眺望可能 * 棚田エリアへの立入不可（久礼野地区と対照的） 【状態=△/開発圧力=中（農地転用）/区域指定=難】 ●久礼野地区 * 東西に緩やかに広がる谷地に立地した農村集落/田舎景観 * 土羽主体の棚田/目立った耕作放棄地なし * 人工林と広葉樹林がモザイク状に分布/竹林が拡大傾向 * 点在する信仰対象（道沿いの祠/一本杉の祠）/二本柱（輪抜け様？） * 昔ながらの洗い場 * 空石積によって整備された水路・湛水池 * 高知市による学習会のフィールドとして利用されているとのこと * 集落南側で開発が進行中（山が切り取られている） 【状態=○/開発圧力=進行中（ソーラー?）/区域指定=やや易?】	
30	領家地区の棚田	行川川上流の領家地区には、里山に囲まれた箱庭のような水田地帯と、見る者を圧倒するような急峻な棚田群が隣接する。また、水田の中を流れる行川川の支流には、景観的にも生態学的にも意義のある古い構造物が残っており、これらは農村地域の代表的な文化的景観の一つととらえることができる。近年、このような景観は高知市近辺では急速に減少しており、前述の棚田群と一体的に保全していく必要がある。	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	斜面地に拓かれた大規模な棚田。石垣の補修は空石積により行われている。耕作や棚田の維持管理の継続が課題である。	* 耕作放棄地と見られた棚田下部の荒地の草が刈られ、見やすくなった * 一部の田面で稲作以外の耕作 * 空石積による棚田石垣の補修跡（要確認） * 台風21号の影響（集落内の道路沿いに風倒木が点在） 【状態=○/開発圧力=耕作放棄による影響/区域指定=難】	
32	坂口地区の棚田と石垣	鏡坂口地区は的淵川上流に位置する、周囲を急峻な地形に囲まれた小規模な集落である。古くから水稻のほか茶の栽培が盛んであり、明治年間に築かれたという幾重にも連なる石垣は一見に値する。地形を大きく改変することなく開かれた棚田は柔らかな曲線が連続し、訪れる人々の郷愁を誘うとともに集落の魅力をいっそう高めている。また、的淵川の側に建つ巖島神社の桜は集落のランドマークとしての機能を果たし、周辺の河川や農村景観とよく調和している。	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	斜面地に拓かれた棚田。一部萱場に置き換わっているものの、良好な状態が維持されている。	* 棚田の中ほどに廃屋（倒壊間近） * 水田とともに茶畑が多い * 四方竹畑に転換されたと思われる農地 * 神社/水車小屋/水防扉のある人家 * 集落の反対側の道に視点場あり（一望できる/高い観賞価値） 【状態=○/開発圧力=耕作放棄・廃屋による影響/区域指定=難】	

秋季現地調査の結果（概要）

No.	名称	特質：H3	評価：H3					備考	自然環境の保全目標／保全方法：H3	現状：H28夏季	現状：H29秋季	
			地形・地質	植物	動物	自然景観	利用状況					保護条例等
1	筆山	<p>【地形・地質】チャートなどの堅硬な地質を含んでおり、開発の程度は低い。</p> <p>【植物】筆山の北側斜面は、ほぼ自然植生といえるコジイ群落に覆われ、山頂部にはアカマツ群落が分布する。</p> <p>【動物】筆山の東斜面にはオガタマノキも多く生育しており、潮江八幡宮とともにミカドアゲハの生息に良好である。</p> <p>【自然景観】柳原橋付近から見た鏡川の水面に映る姿は、その名の由来である「筆」に見え、潮江天満宮の森林の緑の深みがよく感じられる。</p> <p>【利用状況】市街地に近く、古くから墓地として利用されており、墓参りやハイキングに来る人が多い。</p> <p>【保護条例等】潮江天満宮などのミカドアゲハの生息地は国の特別天然記念物に指定されている。鷲尾山県立自然公園および筆山鳥獣保護区に指定されている。</p>	C	A	A	B	A	A/B	<p>昔から市民に親しまれてきた場所である。オガタマノキが生育しており、ミカドアゲハにとって良好な生息空間である。</p>	<p>【目標】ミカドアゲハの保護と自然教育の森 特別天然記念物「ミカドアゲハ」の生息環境を保全するとともに、郷土の自然植生を代表するシイ・カシの自然林を観察する場として保全する。</p> <p>【方法】 *貴重な植物群落（シイ林）および貴重な植物種を保全する。 *ミカドアゲハの食草であるオガタマノキの保護と、成虫が密を吸うための樹木（センダン、イボタノキ、ウツギ等）の保護とそれらの樹種の植栽を行う。</p>	<p>目立った変化はなく、良好な状態で維持管理されていると推察される。周辺部の都市化の進行により、対岸からの眺望は必ずしも良好とは言えない。</p>	同左
2	山内神社の森	<p>【地形・地質】石立八幡宮の丘は、縄文海進によって残丘化したものである。</p> <p>【植物】石立八幡宮の森はクスノキ、ムクノキなどが密生し、小規模ながら比較的自然度も高い。</p> <p>【動物】ツグミ、ヒヨドリなどの里山的な鳥類が多く生息する。野鳥にとっては、市街地の中のオアシスである。</p>	C	B	C	B	B	A	<p>市街地の中で、緑のオアシス的な存在である。周辺の緑から孤立しているので、鏡川を軸とした緑のネットワークで結ぶ必要がある。</p>	<p>【目標】野生動物のオアシス 市街地の中の残り少ない「緑のオアシス」として保全する。</p> <p>【方法】 *可能な限り現在の樹林の面積を確保するとともに、多様な植物相となるようにする。</p>	<p>目立った変化はなく、良好な状態で維持管理されていると推察される。</p>	同左
3	石立八幡宮の森	<p>【自然景観】石立八幡宮を鏡川北岸から見ると、堤防の樹木と一体となり、鏡川の水面に映えて潤いのある緑空間を形成している。</p> <p>【利用状況】水遊びや散歩などのポイントである。山内神社前のみどりの広場は各種のイベントに利用されている。</p> <p>【保護条例等】石立八幡宮と山内神社の社叢は高知市の保存樹林に指定されている。</p>	C	B	C	B	B	A	<p>裏山は原生林に近い貴重な植物相をもつ。周辺の開発等により、ゲンジボタルが減少傾向にあり、早急な保護措置が望まれる。</p>	<p>【目標】自然林の保全とゲンジボタルの保護 高知県内でも残りの少ない貴重なシイ類の自然林を保全するとともに、鏡川からの用水（朝倉用水）に生息するゲンジボタルを保護する。</p> <p>【方法】 *貴重な植物群落であるシイ林、および貴重な植物種を保全する。 *ゲンジボタルの生息環境を保全する。</p>	<p>目立った変化はなく、良好な状態で維持管理されていると推察される。</p>	同左
4	朝倉神社の森及びその裏山	<p>【地形・地質】標高約93mの小起伏丘陵。</p> <p>【植物】裏山のシイ・カシ林は非常に自然度が高く、危急種に指定されているハナガカシのような希な植物も存在する。</p> <p>【動物】市街地近くでゲンジボタルが見れる貴重な場所であるが近年、その個体数は減少傾向にある。</p> <p>【自然景観】周囲の宅地化によって、裏山の景観は分断されているものの、東側の朝倉用水付近では水と緑がよく調和している。</p> <p>【利用状況】交通の便もよく、夏期にゲンジボタルを観賞するために、訪れる人も多い。</p> <p>【保護条例等】裏山一帯が高知市の特別自然保護地区に指定されている。</p>	C	A	A	C	B	A	<p>裏山は原生林に近い貴重な植物相をもつ。周辺の開発等により、ゲンジボタルが減少傾向にあり、早急な保護措置が望まれる。</p>	<p>【目標】自然林の保全とゲンジボタルの保護 高知県内でも残りの少ない貴重なシイ類の自然林を保全するとともに、鏡川からの用水（朝倉用水）に生息するゲンジボタルを保護する。</p> <p>【方法】 *貴重な植物群落であるシイ林、および貴重な植物種を保全する。 *ゲンジボタルの生息環境を保全する。</p>	<p>社寺林、裏山とも良好な状態にあると推察される。</p>	同左
5	岩ヶ淵及びその裏山	<p>【地形・地質】鏡川の屈曲部にあたり、左岸側は鏡川の浸食で自然崖になっている。</p> <p>【植物】裏山はシイ・カシ萌芽林に覆われ、里山的な植物相を呈している。</p> <p>【動物】山林部と平地部両方の鳥類が見られ、水鳥も多い。人の立ち入ることのできない右岸の水際部も鳥類の生息にとって良好な環境である。</p> <p>【自然景観】広い水面、自然崖、後背地の自然林がよく調和している。右岸の構造物やコンクリート護岸がマイナス要因となっている。</p> <p>【利用状況】朝倉堰の上流側が水泳場になっている。岩ヶ淵の静かな水面を利用したカヌーや、野鳥の観察会に利用されている。</p> <p>【保護条例等】特になし。</p>	B	B	A	B	B	C	<p>水鳥などの野鳥が豊富に生息している。保護措置を受けていないので、早急な対策が望まれる。</p>	<p>【目標】野鳥の楽園（鏡川野鳥公園） 鏡川下流部の自然崖と、河川に接する自然の森を保全し、野鳥観察の場を市民に提供する。森林は魚付林の役割を果たすように保全する。</p> <p>【方法】 *自然崖およびその植生を保全する。 *野鳥の生息環境を確保するために、広葉樹林を保全する。 *右岸からの良好な自然景観を確保するために、山のスカイラインを保全する。 *右岸の景観を保全するために、現在の樹木を保護するとともに、積極的に緑を増やす施策を実施する。</p>	<p>淵に目立った変化はなく、裏山は良好な状態にあると推察される。</p>	同左

秋季現地調査の結果（概要）

6	川上不動尊の森及びその周辺の森林	<p>【地形・地質】 広い川原と淵があり、水泳には絶好の地形である。</p> <p>【植物】 裏山はシイ・カシの自然林に覆われており、宗安寺周辺のシイの老木が鏡川にまで張り出している。</p> <p>【動物】 サシバが営巣するなど、鳥類にとって良好な生息環境である。</p> <p>【自然景観】 露岩と淵、水面まで張り出したシイの老木、後背地の自然林がよく調和しており、開放的で親しみのある風景になっている。</p> <p>【利用状況】 夏期には水泳やキャンプする人々で賑わう市民の憩いの場所である。</p> <p>【保護条例等】 高知市指定の水浴場になっている。</p>	B	B	B	B	A	C	シイの老木が川岸まで張り出し、落ち着いた景観をもつ。夏期には水泳場として、大勢の人々に利用されている。	<p>【目標】 自然河川の水浴場 自然崖・淵および木陰のある水浴場として、周辺の環境を保全する。 森林は魚付林の役割を果たすように保全する。</p> <p>【方法】 * 自然崖およびその植生を可能な限り保全する。 * 貴重植物およびその生育環境を保全する。 * 自然度の高いシイ・カシ林を保全する。</p>	社寺林、周辺の森林ともに良好な状態にあると推察される。	<p>同左</p> <p>宗安寺の水辺（仮称） =6. 川上不動尊区域指定地先の河川区域 * 河床：瀬→淵→瀬の河床が維持されている * 河岸：飛込み岩と淵（左岸） ／車でアクセスできる砂州（右岸） * 上記の環境を一体的に保全する必要あり ⇒直線化されていない水際が要 （県道の路側擁壁は岩盤の上） ⇒水際の岩盤が最も重要な保全対象</p>
7	七ツ淵神社の森及びその周辺の森林	<p>【地形・地質】 7つの滝が連続する特異な地形である。</p> <p>【植物】 川の周囲はシイ・カシの自然林に覆われている。</p> <p>【動物】 周辺の地域では、ゲンジボタルが豊富に生息している。</p> <p>【自然景観】 自然林に覆われた渓谷美は神秘的な景観を見せている。</p> <p>【利用状況】 四国の道（四国自然歩道）である「北山スカイライン」の支線が七ツ淵に通じており、ハイキングなどとともに、利用されている</p> <p>【保護条例等】 北山県立自然公園内に位置する。</p>	A	B	A	B	B	B	7つの滝が連続する特異な地形をもつ。ゲンジボタルが豊富に生息している。	<p>【目標】 7つの滝とゲンジボタルの保全 滝の神秘性を保つために、現在の水量・水質、および周辺の植生を保全する。ゲンジボタルの生息環境を保全するとともにその観賞地域を残す。</p> <p>【方法】 * 七ツ淵神社および滝周辺の自然林を保護する。 * 貴重植物およびその生育環境を保全する。 * 滝の水量および水質を保全するために、これに関係する全流域の開発（裸地化や住宅地化等）を制限する。 * ゲンジボタルの観賞ができるように、現在の農地を可能な限り保全する。</p>	社寺林、周辺の森林ともに良好な状態にあると推察される。	<p>台風21号による被害 風倒木により沢沿いの遊歩道が随所で崩壊</p>

H03評価

【地形・地質】

- A：特異な地形・地質をもつ
- B：瀬や淵が存在し、河川空間として人々に親しまれやすい地形である
- C：特色なし

【植物】

- A：貴重な植物群落が存在する（特定植物群落等）
- B：周囲が自然林に覆われている
- C：特色なし

【動物】

- A：貴重な動物種もしくは特定の動物が、特徴的にその地域に生息する
- B：比較的多くの動物が生息する
- C：特色なし

【自然景観】

- A：鏡川と一体となった景観が特に優れている
- B：人々に親しまれやすく、風光明媚である
- C：特色なし

【利用状況】

- A：大勢の人々に利用されている
- B：人々に親しまれ利用されている
- C：あまり利用されていない

【保護条例等】

- A：その特定の地域が条例等の保護を受けている
- B：広い範囲にまたがる保護条例の中に位置する
- C：条例等の保護や指定を受けていない